

各部門報告

争議部

昨年度大會に於て資本攻勢より労働攻勢へ——が叫ばれたにも拘らず争議事件数は昨年度大會に於けるよりも減少を見た。組織工場の賃上げ、待遇改善等は工場主側が従業員側の要求を見越して前以つて値上げ、待遇改善を実施したことにも依るのであるが、未組織工場の自然發生的な争議は大部分工場主側との屈辱的な妥協により、又は居残り等による多少の増収によつて要求を見合せ、従來の如く如何におくれたる労働者と雖も容認し能はざる解雇、賃下、工場閉鎖等直接生活手段を脅す如き事柄が比較的少かつたによつたものであらう。さらに今一段重要なことは、われわれの働きかけが不十分であつたことを認めなければならぬ。自然發生的な争議方針を計画的なものになし得なかつたことを數字は冷かに示してゐる。勿論われわれは意圖主権の未完成、争議部の種々な缺點、特に争議統制の缺陷等は本年度大會に於いて充分に批判されなければなら

ぬ。資本攻勢から労働攻勢への機運が實際に起つてゐ、また起りつゝある今年度に於いて、誰が争議の指導権を握るかは決定的な場面に於ける階級對階級の闘ひにプロレタリアートが一時敗北退却するか、しないかの原因を作るものであらう。勿論我々はあらゆる闘争場面に於てインシニアチーフ（創意）を發揮し、指導権を得ることによつてめざらう、またしなければならぬ。

組織部

組織は多少の増加を見た。だがこれは減少を見なかつたと云ふべきであらう。未曾有の反動期に際し、我々は組織活動に就いて非常な苦心を重ねた。幾多の経験を得た。この苦心の中から、経験の中から大阪鐵工所に組織を獲得し大阪機械製作所の組織が復活されたが、一方支部の解消があつた。

縦横組合、御用組合へ影響力を強め、未組織工場への働きかけは今後も尚一層計画的に遂行するべきである。

教育部

特に地域的、または時間的な關係から支部聯合、地區協